

## 家出の繰り返しを改めた高校生の事例

1. 主訴 家 出

体育は苦手、部活動もしない。

2. 対象 高等学校1年 男子

——心理的次元——

### 3. 問題の概要

#### (1) 最初の家出

高校1年の春休み、本人（以下A男）は、家から新聞配達に出たまま行方不明となった。両親がA男の部屋を調べたところ、スポーツバックがなくなっており、また、机のひき出しから貯金通帳がなくなっていた。このことから、A男の両親は家出と考え、警察に捜索願を出した。それから5日後、B市の警察に保護された。B市で開かれていたモーターショーを見たくて、自転車で家出したということであった。

#### (2) その後の家出

##### ● 高校2年6月

自転車でD市方面に家出。理由は特にない。母が集金しておいた現金数万円を持ち、学校を早退し、家出している。

##### ● 高校2年12月

修学旅行で見たE市の景色が見たくて、自転車で家出。この時は、家からもらった授業料を持って家出している。B市で保護された。

### 4. 資 料

——生物的次元——

##### ● 身体的特徴

身長168cm、身体が弱い。

##### ● 食 行 動

好き嫌いが激しい。

##### ● 運動・行動

##### ● 知的発達

中学2年から成績が低下してきた。知能は中程度であるが、勉強をしないため各教科とも成績評定は2（5段階）である。

##### ● 対人関係の特徴

小学校低学年時は、人前に出たがらなかった。また、年下の子どもと遊ぶことが多かった。高学年になると家の中に閉じこもりがちになり、外で遊ぶことが少なくなった。

中学校、高校の時期も学級の中では孤立していて、級友と話をすることは少なかった。

##### ● 性格傾向

〈高校での行動および性格の記録〉

おとなしく、学級の中で最も口数が少なく、活発さに欠ける。

#### 性格検査（Y G）（高1）

	1	2	3	4	5
D	1	2	3	4	5
C	1	2	3	4	5
I	1	2	3	4	5
N	1	2	3	4	5
O	1	2	3	4	5
Co	1	2	3	4	5
Ag	1	2	3	4	5
G	1	2	3	4	5
R	1	2	3	4	5
T	1	2	3	4	5
A	1	2	3	4	5
S	1	2	3	4	5
E系統値 4 C系統値 9 A系統値 3 B系統値 0 D系統値 5					

C型であり、日常生活ではおとなしくて目立たないタイプであるが、あまり深く考えず軽率に行動する傾向がある。

#### 問題性予測検査（DAT）（高1）

MPタイプであり、家庭に対して不適応感を持っている。また、他の資料から対人不適応傾向がうかがえるのに、本人は対人関係は良好であるとらえている認知のズレが見られる。自分自身を